



平成 20 年 9 月 25 日

各 位

会 社 名 株式会社キリン堂
 代 表 者 名 代表取締役社長 寺西 豊彦
 (コード番号 2660 東証第一部・大証第二部)
 問 合 せ 先 常務取締役 井村 登
 事業戦略室長
 (TEL. 06-6394-0039 (代表))

業績予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ

平成 20 年 4 月 1 日の決算発表時に公表しました平成 21 年 2 月期中間期（平成 20 年 2 月 16 日～平成 20 年 8 月 15 日）並びに「平成 21 年 2 月期（平成 20 年 2 月 16 日～平成 21 年 2 月 15 日）」の業績予想（連結・個別）を下記のとおり修正いたします。また、当中間期、当社並びに当社連結子会社において、特別損失が発生する見込みとなりましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

(1) 当中間期の業績予想の修正（平成 20 年 2 月 16 日～平成 20 年 8 月 15 日）

① 連 結

	売上高	営業利益	経常利益	中間(当期) 純利益	1株当たり 中間(当期) 純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 予 想 (A) (平成 20 年 4 月 1 日)	54,751	1,285	1,338	405	38.85
今 回 修 正 予 想 (B)	53,752	1,063	1,165	382	36.50
増 減 額 (B-A)	△ 998	△ 221	△ 172	△ 23	
増 減 率 (%)	△ 1.8	△ 17.3	△ 12.9	△ 5.7	
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 2 月期)	106,098	2,321	2,530	804	89.44

② 個 別

	売上高	営業利益	経常利益	中間(当期) 純利益	1株当たり 中間(当期) 純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 予 想 (A) (平成 20 年 4 月 1 日)	50,335	1,319	1,407	654	62.59
今 回 修 正 予 想 (B)	49,087	1,089	1,222	400	38.14
増 減 額 (B-A)	△ 1,248	△ 230	△ 184	△ 253	
増 減 率 (%)	△ 2.5	△ 17.5	△ 13.1	△ 38.8	
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 2 月期)	87,446	2,401	2,666	1,330	148.04

(注) 前回予想(A)の1株当たり予想中間純利益につきましては、平成 20 年 6 月 24 日公表の「平成 21 年 2 月期第 1 四半期財務・業績の概況」にて上記に変更いたしております。

(2)通期の業績予想の修正（平成20年2月16日～平成21年2月15日）

①連 結

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 予 想 (A) (平成20年4月1日)	110,480	2,801	2,912	945	88.71
今 回 修 正 予 想 (B)	109,480	2,700	2,920	950	87.05
増 減 額 (B-A)	△ 1,000	△ 101	7	4	
増 減 率 (%)	△ 0.9	△ 3.6	0.2	0.5	
(ご参考) 前 期 実 績 (平成20年2月期)	106,098	2,321	2,530	804	89.44

②個 別

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 予 想 (A) (平成20年4月1日)	101,613	2,773	2,956	1,355	127.22
今 回 修 正 予 想 (B)	100,364	2,593	2,860	1,100	100.80
増 減 額 (B-A)	△ 1,249	△ 180	△ 96	△ 255	
増 減 率 (%)	△ 1.2	△ 6.5	△ 3.3	△ 18.8	
(ご参考) 前 期 実 績 (平成20年2月期)	87,446	2,401	2,666	1,330	148.04

(注) 前回予想(A)の1株当たり予想中間純利益につきましては、平成20年6月24日公表の「平成21年2月期第1四半期財務・業績の概況」にて上記に変更いたしております。

2. 業績予想の修正理由について

(1)中間業績予想の修正理由

①連 結

当社グループ（当社及び連結子会社）は、現在、関西地域ドミナント化のさらなる推進を目的に「2015年 売上高 2,000億円・500店舗」体制を目指し、グループシナジーの追求による業績基盤の強化と利益率の向上に努めております。

この方針のもと、平成21年2月期中間期におきましては、スーパードラッグストアの積極出店と既存店の活性化による収益率の改善をポイントに進めてまいりました。

売上高につきましては、当社の既存店売上高増収率が、客数の伸びを背景に前年同期比2.3%増と好調に推移したものの、競争激化の中でも廉売を控えた販売促進策を実施した結果、売上高537億75百万円（前回予想比1.8%減）と当初見込みを下回る見通しとなりました。

また、利益面につきましては、ヘルス&ビューティケアの強化等により粗利率は改善したものの、十分な粗利高を確保することが出来なかったため、計画内で着地見込みの販管費の増加を吸収するに至りませんでした。

さらに下記「3. 当中間期における特別損失の発生及びその主な内容」の特別損失が発生したことから、「1. (1) 当中間期の業績予想の修正」のとおり、売上高、営業利益、経常利益、中間純利益いずれも前回予想を下回る見通しとなりました。

②個 別

個別業績の修正につきましても、主として連結業績と同一の要因によるものであります。

(2)通期業績予想の修正理由

下半期計画の前提として、売上高に関してましては、先行き不透明な要因がありますことから、見通しを据え置いております。

一方、利益に関しましては、上半期に引き続き、既存店の活性化による収益率の改善をポイントに進めてまいります。特に、当第2四半期において、当社と連結子会社である㈱ニッショードラッグとのグループシナジー効果を発揮させるべく、両社の商品部を統合（仕入窓口の一本化）いたしました。これにより、商品・仕入戦略の方向性を集約させ、化粧品並びにPB商品のさらなる販売強化と、お客様のニーズに応える品揃えとサービスの提供に鋭意取り組んでまいり所存です。さらに、当社と㈱ニッショードラッグにおける人員配置や作業の合理化等により、コスト削減に努めてまいります。

以上により、通期見通しにつきましては、連結、個別ともに中間期実績の予想数値を修正したことに加え、下半期の見通しを反映し、上記「1. (2)通期の業績予想の修正」のとおり、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも前回予想を変更いたします。

3. 当中間期における特別損失の発生及びその主な内容

①連 結

・減損損失

「固定資産の減損に係る会計基準」を適用することに伴い、当社及び当社連結子会社が所有している店舗設備等の一部について減損損失が 272 百万円発生、さらに当社及び当社連結子会社の不採算店舗の閉鎖に伴う店舗閉鎖損失が 25 百万円発生する見通しであります。

・過年度借地権償却

従来、事業用定期借地権については法人税法の規定に基づき、償却を行わず取得原価で資産計上しておりましたが、当中間連結会計期間より、賃借契約期間を償却年数とする定額法に変更することとなりました。この変更は、賃借契約期間を償却年数とし、営業費用として認識することにより、適正な費用配分に基づく合理的な期間損益計算を行い、かつ、財政状態の健全化を図るためのものであります。

その結果、過年度借地権償却として 44 百万円を特別損失として計上する予定であります。

以上により、当中間連結業績におきましては、3 億 66 百万円を特別損失に計上する予定であります。

②個 別

・子会社株式評価損について

当社連結子会社である㈱ジェイドラッグの株式について、監査法人との協議の結果、同社の財務状況を鑑み、会計上厳格かつ保守的に見積もることが相当であるとの判断に至りました。

その結果、当社個別業績におきましては、子会社株式評価損として 228 百万円を特別損失として計上する予定であります。

なお、連結業績におきましては、子会社株式評価損は連結処理上消去されるため、特別損失への計上はございません。

・当社個別業績におきましても、連結と同様、減損損失並びに過年度借地権償却を特別損失として計上する予定であります。

以上により、当中間個別業績におきましては、4 億 88 百万円を特別損失に計上する予定であります。

- (注) 1. 当社（連結・個別）は、平成 20 年 9 月 26 日に中間決算発表を予定しており、詳細につきましては、決算発表にてご報告させていただきます。
2. 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上